

2012年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター 運営委員会会議録〈確定稿〉

- 開催日時：2012年11月13日（火） 午後6時30分～8時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：五十嵐強、伊藤隆志、内田日出子、小野田恵、佐野美野里、田中紀子、野口しほり、松尾浩邦、山内淑子〈以上9名、敬称略、あいうえお順〉
- 欠席委員：稲葉孝之〈以上1名、敬称略〉
- 事務局：望月利將（事務局長）丸木 敦（地域福祉課長）、長山清美（コーディネーター）、篠原保之（係長）

事務局より欠席委員の報告。事務局長より挨拶。その後、資料の確認を行う。

1. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局：9～11月の事業について。

9/27 北多摩北部ブロックボランティアコーディネーター研修を実施。9月から福祉系学部の学生の実習を多数受け入れ。HP検索数について、7月・8月と比べるとアクセス数が減少。6月までの実績数に戻る。9月・10月の検索ワードで多かったものは「子どもとできるボランティア」「傾聴」「災害」など。また、「点字」「老人ホーム」なども、講座の案内に合わせて多くなっていた。特殊なものでは、「プルトップ」「音訳」「清掃活動」「韓国語」「中国語」などでの検索があった。コーディネートでは、講座の後で、登録ボランティアが増えると思われる。

11月以降の予定について。

10/25 から始まっている「初心者点字教室」が終了する。定員6名が全回参加。講習後、点字ボランティアグループ「どんぐり会」の見学を予定。12/2 軒下ふれあいバザーを開催する予定。今回は模擬店が少ない。12/29～1/3 は休業とする。田無総合福祉センターも閉館となる。福祉系学部の学生の実習が、12月2名、2月2名の予定。

以上について報告。

2. 審 議 事 項

(1). 会議録の確認

平成24年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録〈未定稿〉について、未定稿を確定稿とする。

3. 協 議 事 項

(1). 平成25年度事業について

委員長：本日は2つの議題があがっている。まずは、25年度の実業について説明をお願いしたい。

事務局：事業項目については一覧表に記載した。「ボランティアはじめて講座」を年2回開催予

定。「スキルアップ研修」をセットにして計画した。「子どもと関わるボランティア」「高齢者の方とのコミュニケーション」「学校でのボランティア活動」をテーマにした内容を行なう。受講後に幾つかの活動に参加した後、受講者の集まる機会を設け、グループとしての活動も視野に交流を持つ予定。グループでの活動の第一歩としていきたいと考えている。「夏!体験ボランティア」は例年通りに行いたい。「軒下ふれあいバザー」も継続予定。12月には学習会と懇談会と一緒に「ボランティア懇談会」として実施したい。また、「ボランティア団体交流会」も継続する。「ボランティアのつどい」は、現在実行委員会を開催し、開催日時や内容を検討中。年間を通じてボランティアに参加する方を増やしていく講座を進めていきたい。「保育」「高齢者」「学校でのボランティア活動」での活動について、ボランティア確保を続けていきたい。また、今まで声をかけてこなかった方々を対象にして、ボランティア参加の呼びかけを行ないたい。そして、「ボランティアグループの組織化」も考えていきたい。「災害時のボランティア活動」についても、現在は西東京市社会福祉協議会全体で取り組んでいるが、西東京ボランティア・市民活動センターとして取り組めるものを考えていきたい。「情報発信」については、効率的な進め方を検討していきたい。今後の検討課題として、様々な課題に対する「3か年計画」のようなプランを検討していきたい。運営委員会での協議を進め、可能な範囲で計画していきたい。予算に関する資料を2つ提示した。1つは「各事業の予算根拠」を示した。もう1つは「用途ごとの資料」を提示した。各事業についてのご質問やご意見をいただきたい。

委員長：前回の検討を踏まえての事業計画が出された。具体的な事業と予算の資料が出されたが、「ボランティアはじめて講座」は「スキルアップ研修」がセットになっているのか。

事務局：「スキルアップ研修」は「ボランティアはじめて講座」の受講者に参加をお願いする予定。また、既にボランティア登録されている方の参加も考えている。

委員：2回の「スキルアップ研修」は、同じ内容で行なうのか。

事務局：ボランティアニーズの高いテーマを挙げている。「高齢者とのコミュニケーション」や「子どもの保育に関する研修」「学校でのボランティア活動」についての講座を考えている。

委員長：今年の「傾聴ボランティア講座」は、どのような実績だったのか。

事務局：33名が受講。そのうち女性が32名であった。今回は5日間の実施でこれまでの傾聴講座より回数が少なかったため、現場での実習を行わなかった。現在活動中の傾聴ボランティア団体の活動見学を進めている。

委員：これまでの「ボランティアはじめて講座」の参加者はどのくらいなのか。

事務局：これまでは毎回10名くらい。1日の講座の場合、参加者が多かった。他市では毎月定期的に短い時間での説明会を行なっているところもある。次年度は1日講座を2回実施したい。

委員：講座は1日だと参加がしやすい。そのあとの「スキルアップ研修」なら気分を変えて参加できるので良いのではないか。

委員：研修会の開催時間はどのようになっているか。

事務局：これまでは午後に行っていた。次年度も午後を予定している。

委員：参加者の年齢層はどうなっているか。

事務局：時間に余裕がある方となると、若い方は少ないと思う。

委員：「ボランティアはじめて講座」では、基礎的なことを学ぶと思うが、「スキルアップ研修」は、出なくてはいけないものなのか。

事務局：半日で実施する「ボランティアはじめて講座」では、内容量に限りがあるので、「スキルアップ研修」には参加して頂きたいと考えている。

委員：「スキルアップ研修」などをすべて受けた後にボランティア登録をしてもらうのか。

事務局：ボランティア登録については「ボランティアはじめて講座」の終了時点で行なう予定。その後、活動の幅を広げてもらえるように考えている。

委員：内容が面白そうなので、自分も参加してみたい。

委員：このような講座の組立ては初めてなのか。

事務局：スキルアップを目的とした講座は初めて計画する。

委員：「スキルアップ研修」の目的・意図はどこにあるのか。

事務局：「ボランティアはじめて講座」では基礎的な事を学んでもらい、活動までの流れをお伝えしたい。はじめてボランティア登録される方は、分からないことがたくさんあると思う。「子どもに関すること」「高齢者とのふれあい方」「車椅子の取り扱い」など、いろいろなテーマで学ぶことで、活動する範囲を広げてもらいたいと考えている。

委員：「ボランティアはじめて講座」を受けないとボランティア登録できないのか。

事務局：そのようなことはない。講座には参加できない方でもボランティア登録されている。講座では、基礎的なことやよくある疑問などもまとめている。一緒に学ぶ仲間がいることもボランティア間のつながりを生み、活動に参加しやすくなると思う。

委員：スキルアップと同時にボランティア間の交流もできるので良いと思う。

事務局：今回の「傾聴ボランティア講座」に参加した方の中でも、何回か一緒に講座を受けると仲間意識も出てきている。

委員：これまでの協議の中で、最近のケースとして、現場でのトラブルが報告されていたが、コミュニケーションや信頼関係づくりができていないと思う。その辺りにもつながるスキルアップを考えると良いのではないか。

委員：ボランティアをする側と依頼する側の意思の疎通が指摘されているが、計画されている講座では、ボランティアを依頼する側の問題が挙げられていない。「ありがとう」と言われるような交流の場がないこともあると思う。依頼する側を対象にした講座も計画して良いのではないか。双方に研修の機会は必要だと思う。

委員：ボランティアの交流だけではなく、依頼する側の方の話も聞きたいと思う。

委員：学習会などで、ボランティアを依頼する側の話も聞けると良いと思う。

委員：講座を受けた後、あまり時間がたたないうちに、そのような場を作った方が良いと思う。

委員：施設での傾聴活動では、交流会を開いているところもある。どこかで計画した方が良いと思う。

委員長：今まではそのような機会があったのか。

事務局：職員が依頼者側の依頼内容をしっかり聞き取ることで、依頼者の思いをボランティアに伝えるようにしていたが、依頼する方に声をかけて交流することは行っていない。

委員：障がい者の方のバスツアーの時に、依頼者の思いを聞く機会があった。ボランティア

がやりすぎてしまうケースもある。

事務局：予定には表記していないが、「地域ボランティアコーディネーター研修」を計画している。施設でのボランティア受け入れ担当者を対象にしているが、実施している北多摩北部ブロックの会議で検討して、参加対象の範囲を広げていくことは可能だと思う。

委員長：予算化されているのか。

事務局：他市との共同開催で、予算化されている。

委員：まずは西東京の中での、依頼者側の懇談会を行うと良いと思う。地域の中で話しやすい雰囲気が集まる機会があれば良いのではないかと。ボランティアをする側・依頼する側の意見交換の場も検討してほしい。

委員：ボランティアや依頼する側の生の声を出し合い、話を聞ける交流の場があると良い。ボランティアをしていると、思いが一方通行で終わってしまうような気がする。

委員：スキルアップやフォローアップ、学習会を行う中で何処かで入れても良いのではないかと。

事務局：大きい施設ではボランティア受け入れに関する方針が出されているところもある。施設・個人・サークルなど立場が違っているとそれぞれ思いも違うので、研修会とは別に情報交換ができると良いかもしれない。

委員：活動に行くと、窓口になる職員が明確でない場合がある。指示が出されないことがあり、動きにくいことがある。

委員長：需要と供給の問題だと思う。大きな高齢者施設では、職員のバックヤードをやっているところもあり、そこまでボランティアがやるのかと感じたことがある。業務の一つであり、性格づけが全く違うもの。その活動を理解してきている人は問題ないが、ボランティアがどのような思いで来ているか、ニーズがどこにあるのかを把握する必要がある。条件が整理されていないところこそ、ボランティアの受け入れのルールが必要だと思う。新たに事業として取り組むことは難しいかもしれないが、学習会は必要だと思う。

委員：ボランティアに参加して、ボランティアが「やりたい」と思っていることと依頼者側の「頼みたいこと」が違うケースがある。仲介する方が話を聞いてくれると助かると思う。「これはやっていいのか」と思った時に依頼者に聞いてみると指示がもらえる。

委員：ボランティア活動を行うことを学校の課題に出されることがあった。やりたいことをやるのがボランティアだと思っていたが、講座などで、ボランティア活動がどのように役立つのかがわかれば、良いと思う。学生は参加ができないので、学校で説明会があると良いのではないかと。

委員：学生の中では「ボランティアに行くと単位がもらえるの？」という人もいる。とらえ方はまちまちである。

委員：講座を受けた人がボランティア活動に関する知識を多くの方に広めてくれると良いと思う。活動報告をしてもらって、まとめてみても良いのではないかと。

委員：そのような事を「スキルアップ研修」にしても良い。実践例をまとめて発表すると良いのではないかと。

事務局：ボランティア活動が楽しくできるような情報の提供をしていきたい。他市の企画のように、社会人や会社勤めの人など、対象者を絞って事業を行ったり、学生と企画し

て大学内での説明会を考えても良い。外に出向くことを積極的に進めても良いのではないか。

委員：常識感が世代ごとで違う。若い人は人に対して一定以上は踏み込まないという常識があると思う。本音では話さないことが多いという。本音で話し合える交流ができると良いのだが、行なうとなると難しい。

委員：ボランティアを頼む側の留意点や心構えをまとめたものはあるのか。

委員：頼む側にもマナーは必要だと思う。保育活動の現場では、そのことを感じる。活動範囲についてもマナーがあると思う。

委員：マナーが必要でこれが守られていないということは、言い換えれば、マニュアルがないということになる。

事務局：施設の中にはマニュアルができていところもある。「ここまではボランティアにお願いする」「ここは職員が対応する」などの指針が必要。ボランティアが来ても、何を頼んで良いかが分からないことがあるのではないか。施設の中でのボランティアには、基本業務は頼まないところが多く、研修会でも報告されている。

委員長：「ボランティアはじめて講座」は、ボランティアを増やすことを目的にしている。「ボランティア活動をやってみたい」という気持ちで参加する人を応援したい。また、ボランティアを依頼する側の研修は、どこかで取り組んでいくことは必要と感じている。環境が整っているところは良いが、ルールができていないところについては、マニュアルのある事業所を参考に、研修を実施しても良いと思う。

委員：ボランティアを依頼する側の希望もあると思うし、両方の生の声を聞くことは必要だと思う。

委員長：ニーズとニーズのマッチングなので、相互理解は大切。そのためのコミュニケーションの場は必要ではないか。相互理解ができていなければ、マッチングもうまくいかないし、お互いのニーズが充足されない場合がある。意志の疎通は難しい。お金を介在しない活動なので、価値観の相互理解は大切だと思う。そして、ボランティアを求める人の育成も必要。活動に行き楽しかったと思えないとボランティアは増えていかないと思う。一回つまづいてしまうと、もう活動に行かなくなるのではないか。

委員：何かをもらうわけではないが、「ありがとう」の言葉や人間関係ができることで満足している。そのような思いを感じてもらいたい。

委員長：これからのスケジュールはどうなっているのか。

事務局：2月に本予算の提出がある。理事会等を経て確定する。

委員長：スケジュール的には大変だと思うが、可能な範囲で今回出た意見を参考に、事業の組立を考えてみてはどうか。

(2). 平成 25 年度運営委員会の体制について

委員長：次に次年度の運営委員会の体制について説明をしてほしい。

事務局：現在 2 期目の 3 名の委員が退任になる。学校の校長会からは 1 名が選出される。大学生の方は交代の予定。現在、1 期目の方は、改めて 2 期目も参加いただきたいと考えている。運営委員の皆さんには、「活動者を増やすこと」「活動者支援のアドバイス」「人材確保のアプローチ方法」などについて、ご意見を頂きたいと考えている。現在

のところ、施設関係者や登録ボランティアなどからの選出を考えている。学生のボランティアの参加が少なくなっている現状がある。自由に使える時間が少なく、ボランティア活動をやりたくてもできない方もいる。実際にボランティア活動している人から選出すると良いのではないかと考えている。

委員長：様々な立場の方から意見が出ることは良いと思う。ボランティアが生き生きとし、活動が活発になる街づくりが求められていると思う。それは、住んでいるところが充実してくることに繋がる。運営委員会を通して、人と会っていて楽しいと感じる場にしていきたい。楽しくなければ出てこないと思う。新しい運営委員の選出についての意見を頂きたい。

事務局：ボランティアを受け入れている方についての話があったが、大きい施設だけではなく小さな団体からも参加していただくとありがたい。

委員長：小さな団体が多くなっている。団体を育てる意味でも参加してもらえると良いと思う。「子育て・介護は社会の仕組み」ということも言われていた。ボランティアの必要性は求められている。在宅の人が増えてきて、まちづくりの中でボランティアの存在は必要となっている。子育ても社会の仕組みとしてとらえていかないと成り立っていかない状況にあるのではないか。

委員：障がい関係の方は候補に入っているのか。

事務局：過去にはお願いしていたが、現在はいない。

委員：ぜひ入ってほしい。

委員：現在働いている現役世代の方はどうか。働いている方の意識が変わってきている。働きながら自分のライフスタイルを大切にしている方が多くなった。

委員：若い世代の男性がいても良いと思う。

委員：仕事をしながら「別な道でも満足したい」という願いはあるのではないか。

委員：障がいの方がいると、地域の仕組みがそのまま運営委員会として構成されるので、理想的かもしれない。各委員の皆さんも候補者を推薦してほしい。

事務局：大学で運営委員の勧誘活動も行っても良いと思う。関心があれば話を聞きに来てくれると思う。

委員長：活動して楽しかったという方が良いのではないか。いろいろな議論があったと思う。ぜひ今後活かしていただきたいと思う。

5. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

日時：2013年1月8日（火）18:30～20:30

会場：田無総合福祉センター 4階第3会議室

以上をもって、2012年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。